

平成26年10月

議会と語り合

平成26年10月23日24日25日 実施

町民からの 質問・要望等への 回答 【完全版】



永平寺町議会

お問合せ：議会事務局 Tel 61-3950

「議会と語ろう会」町民からの質問要望への回答

○人口減少の克服を目指して

問：人口増がある地区はあるのか (下谷口)

答：松岡・学園で若干増えている。

永平寺：332人、上志比：327人、松岡：279人、合計：938人 減少している。

問：町のホームページを活用すべき。

ホームページには何らか、給食費無償化、空き家等の宣伝を試すべきだ。

町の事務的な事柄しか載っていない。

町外への広報が大切なのは。

(下谷口)

答：最近、テレビCMを放映している。

問：大学へ学生が多く来ているが、住民移動の実態を反映しているのか。

(在住者の実態数)

(下谷口)

答：住民基本台帳、登録している人しか人口にカウントしていない。

約3,000~4,000人いるが、実態の在住数ではない。

問：資料の数字では理解できない。原因の説明が資料にはない。

(下谷口)

答：南地区、所帯数が増えており、結果として増えている。

答：学園・西野中、新住宅地造成地域では人口増が見られる。

問：永平寺町へ移住した場合のメリットは。

(下谷口)

答：若者定住促進策を行っている。

答(行政)：◎若者定住促進支援事業にて若者の住宅取得に必要な経費・子育て経費の一部を助成している。

◎小中学校給食費無償化事業にて子育て世代の学費を軽減できる。

◎すみずみ子育てサポート事業にて既存の子育て支援策で補えないニーズに対応し、児童・保護者に対して安全安心を与えるとともに、子育て家庭の生活支援を行う。(内容=子ども医療費無料化、児童クラブ早朝預かり・児童クラブ、幼児園、幼稚園の緊急時の送迎代行・各生活支援等)

- ◎福井市街地までの距離が近い（車で30分圏内）
- ◎公共交通機関（えちぜん鉄道・路線バス・コミュニティバス）が利用でき、交通弱者にも住みやすい。

意見：就職先がなければ人口は減少してしまう。

スーパー等の買い物が便利なことも大事。

旧区には住みたくない。 (下谷口)

問：人口が増えている行政区は。 (下谷口)

答：鯖江市は増えている。

**問：鯖江市の学校では、将来、大きくなってから地元（鯖江市）に帰ってこない
いと人口は減ってしまうよと教育している。郷土を愛する心を育てるべき。**

(下谷口)

答（行政）：町では「ふるさと永平寺町を誇りに思える魅力ある学校づくりをめざして」という平成26年度の学校教育方針のもとに重点努力目標として、「礼の心」を重んじ、夢や希望を持って粘り強く学び、行動力のある児童生徒を育成している。

意見：鯖江市のPRを東京や関西でも行っている。若い人の活用をしている。

高齢者・若者の活性化が大切。

葉っぱビジネス等、まだまだ収入を増やす対策も必要だ。 (下谷口)

**要望：いま、永平寺町では子ども達や高齢者にはソフト面・ハードな面で厚遇
していると思うが、40歳から60歳代の働いている人たちが、集落内で
更に全町に発展していく様な盛り上がり欲しい。昔は祭りや運動会等は
集落内総動員で盛り上がり相当経費も使えた。今は金をかけないことがど
うか…、寂しい集落は地域が薄れていく。それが空き家にも見えるのでは。
例えば、体育会やスポーツ面の社会体育や社会教育等の財政面での充実を
図って欲しい。** (大野島)

**意見：医大・県大の学生さんは、1年は町内アパートに在住しているようだが
2～3年生になると他市へ異動する現状を見受ける。卒業まで在住する対
策も必要では。** (学園)

**意見：永平寺町の観光は世界レベル。もっと地域全体で取り組む施策を考えて
は。** (学園)

意見：新しい取り組みを模索するより今永平寺町にある魅力的な町政（まつりごと）や食文化的なものや人間性をもっとアピールしたほうがよい。

（学園）

問：若者の独身者が多い。働く職場をつくるべき。（葵1丁目）

答：企業誘致を積極的に推進している。

問：奥越地区から永平寺町への転入が多いかどうかなど、またIターン・Uターンの分析をすべきでは。（葵1丁目）

答：分析することによる対応策の検討が必要として、議会としても行政へ求めている。

答（行政）：◎全国的な課題となっている人口減少対策についてですが、減少速度を緩め、人口増加につなげられる対策を早急を実施していくために、10月より永平寺町人口減少対策検討委員会を設置した。

『永平寺町の人口減少と少子高齢化の進行を食い止める施策の検討』

『人口減少の現状を踏まえた、持続可能な町政を実現する戦略の創出』を様々な方面からの分析（転入・転出先の分析等）・検討を行っていきたいと考えている。

◎平成24年度から現在までに、若者定住促進支援事業を利用して転入してきた世帯数は、33世帯・108人。（勝山市4世帯、大野市2世帯、福井市21世帯、坂井市1世帯、越前市1世帯、石川県3世帯、静岡県1世帯）

◎Iターン・Uターン調査の分析については、福井県にて県外に就職した本県出身若者を主対象とする「福井県出身者のライフコース選択に関する意識形成と行動調査」を実施しているところである。福井に戻らなかった要因をUターン者の行動パターンや意識と比較対照して分析するため、Uターンした県内在住の方も調査対象者に含めて実態調査を行っている。各市町にも調査結果の提供があるので、そのデータも活用し人口減少対策の施策を検討していきたい。

問：私は昭和18年生まれだが、現在の女性は結婚適齢期になっても働けば収入があり独身生活が多いのでは。（葵1丁目）

答：時代の流れによるとそのように見受けられる。

問：結婚の相談・世話人の育成をしてほしい。昔は多くの人だったが、現在いないも同然では。（葵1丁目）

答(行政):町内には婦人福祉協議会というボランティア組織があり、毎月第2・第3・第4の土曜日に町立図書館で結婚相談会を開催している。この方々は7名で県主催のネットワーク(会員約150名)を使い、仲人的なことをしている。昨今個人情報保護により身上書の扱い等が問題となり、町としては安心な結婚相談員を増やしたいと思っている。

問:現在の女性は男性に魅力を感じないのでは。(葵1丁目)

答:それだけではないと思うが、女性・男性の巡り合せをするためにこれまでも町として婚活の予算を持ち、実施している。

問:松岡駅近辺には駐車場が少なく、一軒家にしても敷地面積が小さく駐車スペースがないことから転出するので対策を。(葵1丁目)

答:行政へ提言し対策を議論していく。

問:福井北インターチェンジ近辺に企業誘致や宅地造成の企画をしているのか。(葵1丁目)

答:議会としては企業誘致・宅地造成については絶えず提言している。

問:若者の住みやすい環境づくりにしっかり取り組んでほしい。(葵1丁目)

答:若者定住促進により人口増を図るために、子育て、教育、各事業分野への補助金・助成金等を予算化し住みやすさや環境づくりに努めている。

問:永平寺町へ取り込むには、子育てしやすい町、定住促進・医療・教育関係の助成や補助金等、また大学のある町として全国へPRし、住みやすさを発信していただきたい。(葵1丁目)

答:このような政策により人口増を図るため「永平寺町PR事業」としてテレビPRスポット製作(1,155,000円)し、PRをしている。

意見:地域に活気がない。人が減ったと感じる。(石上)

意見:石上地区は合併してから22人減っているが、この地区は何か原因があるわけではなく、自然減である。(石上)

意見:県内で唯一増加している鯖江は、地場産業を育てている。自分たちが人口増を目指している。ここにおいて、働く場所があることが重要。(石上)

問：丹南地区からの出入りが少ないが、なぜか。 (石上)

答：県内外地区からの移動についてはその要因を調べてみる。

意見：若者が帰ってきてても働く場所が無い。 (石上)

意見：高速道路ができて、出ていく人が多くなるのでは。 (石上)

問：えちぜん鉄道の駅ができるとの話があったと思うが。 (石上)

答：利用客が見込めないと駅も作れない。

**問：住宅地の造成を。駅も作り、企業誘致も行い、総合的に整えることが必要。
福祉も大事だが、企業誘致等にも力を入れてほしい。** (石上)

答：団地を作ることで、西野中は人口が増加した。団地を造成することに地元が多大な協力をしている。

問：資料の数字には福井大学や県立大学の学生の数字も含まれているのか。
(鳴鹿山鹿)

答：資料の数字は住民票を基にしているので、住民票を移動していなければ数字に含まれていない。

問：若者定住促進事業とはどういう内容か。 (鳴鹿山鹿)

答：永平寺町に家を建てて永住する事に助成している。上水道の加入負担金上限8万円、下水道の受益者負担金上限40万円、住宅取得費用新築10万円中古5万円、定住してきた家族に中学生以下の子どもがいる場合子ども1人に付10万円(但し上志比地区・志比北地区に定住する場合は子ども1人に月20万円)

問：若者定住促進事業でその成果は。 (鳴鹿山鹿)

答：松岡西野中で約20軒・上志比せせらぎで14軒。

問：仕事についての支援はないのか。 (鳴鹿山鹿)

答：仕事に対する支援は無い。企業誘致ができないかと提言している。

問：仕事についての支援、Uターン者への助成や帰ってきやすい環境づくりは。
(鳴鹿山鹿)

答（行政）：町のホームページで、定住促進ポータルサイトを設置しており、定住情報として、住まい・助成制度等の情報を提供している。また、各ハローワークにもリンクしており、仕事探しに関しても情報提供できる環境となっている。
また、「永平寺町企業立地促進条例」を制定し、企業誘致にも努めている。

問：人口増の施策は団地・宅地だけでなく企業誘致が必要（小畑）

答：小規模宅地、若い人は来ても、そのうち2世は都市へ集中している。

住宅地のみではなく、働く場所の確保が重要。

答：けやき台は小学生の数も減ってきている。人口だけを考えると、元村の若い人が戻ってくることに大事。

働き口については町も誘致を考えている。

提案：就職、あまり気にすることない。昭和56年に四日市から福井へ来て、15年前にここに来た。東海では1時間の通勤は普通。交通の便さえよければいい。

住環境、魅力ある土地が必要。ここが一番良かった。

ホテルもいるし、穏やかだし。住みよい場にしたい、宣伝していくと良いと思う。

（小畑）

意見：今、町のCMをやっているが、他ではこの良さが知られていない。交通アクセスが良ければ、福井へ通うこの良さが、小畑は、人と人とのつながりがちゃんとできるところだ。地区の人も良かった。やさしい。

CMの内容、どうかもっと自然に。（小畑）

問：町営住宅の入居者は（松原団地）

答：ほぼ全宅入居している。

町営住宅を増やす計画はやめている。

意見：優秀な会社はあるが、規模が小さい。（松原団地）

意見：・生活する上でのマーケットがない。買い物バスがあるといい。

ex. 三国の団地、旧清水町グリーンハイツ

・今後生活するのに交通の便が悪く、年をとった時に日々の生活ができなくなる。それを考えてほしい。（東諏訪問・山）

問：住宅を建てて人口を増やしても一時的に増えるだけ。 (東諏訪問・山)

答：・マルエーが無くなって、買い物ができなくなった。マーケットは民間が行っているが、公共施設の役割をしている。

(22～30%：松岡、27～28%：上志比、15%？：永平寺) の人が買い物

- ・地域を守るために買い物ができる場所がないと住みにくくなる。
- ・上志比にコンビニや道の駅ができると、メイトが難しくなり、住んでいる人が減っている。
- ・上志比など直販の車が来ている。

答 (行政)：まず、町が最近行った宅地造成による結果としましては、西野中地区における宅地造成事業は平成19年度完了、平成20年度に全区画完売しており、栗住波地区においては平成18年度に事業完了、平成21年度に全区画完売している状況である。

また、地区ごとの人口および世帯数は以下のように推移している。

	松岡西野中地区	栗住波地区
平成19年4月(人口)	104人	257人
(世帯数)	24世帯	68世帯
平成23年4月(人口)	157人	290人
(世帯数)	42世帯	80世帯
平成26年4月(人口)	162人	270人
(世帯数)	43世帯	77世帯

以上のことから、両地区における宅地造成事業は地区別に限定すると人口増加等に一定の効果を得られたと思われる。ただし、依然として旧集落からの人口流出も見受けられ、今後の課題としてあげられる。

宅地造成事業の対象地区選定においては綿密な調査を行ったうえで選定する必要がある。最適な地区選定および造成事業を行うことで、町外への人口流出に歯止めをかけ、町外からの流入人口増加に繋がるものが町にとって有益な宅地造成事業であると考えている。

意見：老人センター(永平寺)で移動マーケットを行っていて、老人が買い物をしている。店の人、来てもらっては。 (東諏訪問・山)

問：鯖江市の人口が増えている理由は何か。 (東諏訪問・山)

答：仕事、近くに働く場所が多くある影響でないか。

意見：鯖江市はめがねなど働く場所がある。地場に働く場所が多い。永平寺町でも昔はあった。 (東諏訪問・山)

問：昨年、定住促進支援制度にのり新築し助成の申請をしたが、下水道加入負担金の助成は受けられなかった。対象になる・ならないの規定をはっきり表示すべきではないか。（定住促進の施策として）勝山、東京でも固定資産税減免等さまざまな助成をしている。空き家の入居者斡旋、利活用も含め、もっと真剣な議論の基に積極的な対応を進めないと、人口減はますます進行するのではないか。（市荒川）

答：行政に強く申し添える。どのようなときに対象になるかならないかはっきり明示すべき。（若者定住促進支援制度において）親族の居住地と同一敷地内においても対応の検討、固定資産税の軽減の提言を行っている。空き家の再利用については、空き家情報バンクへの登録、情報公開等で対応している。

問：町は、3年・5年・10年計画とか、人口減少対策は考えているのか。上志比地区で空き家を鮎釣りさんが購入とかの事例もある。空き店舗や空き工場も含めて、情報を役場・商工会のホームページで発信するとか対応出来ないか。（市荒川）

答：振興会では、町に宅地造成に早く取り掛かるようにいっており、上志比地区で100戸位の宅地造成に早く取り掛かるように発言している。宅地造成だけでなく、職場の確保、返済優遇条件付の奨学金等複合的な対策が必要と考える。空き店舗も住居併用物件は難しい。商工会としても空き店舗情報を把握し町へ申請したいと言っている。

意見：若者が住み、働く場があって定住者が増えてくるのではないか。（岩野）

問：思いつきで拙速に住宅を建てるとかやってもうまくいかないのではと思う。子どもを増やすためにだけ団地を作ろうと言うのは小手先の策であると思う。職場・団地・環境等を総合的に考えるべきだと思う。（岩野）

答：働く場の確保が必要だと思います。宅地造成で住宅を増やしても、その世代が年齢を経ていくとその町に働く職場が無いとまた減っていく。同じことになる。

関連意見：子どもが少ないことがそんなに悪い事とは思わない。今週の夜のテレビで、鳥根県の山村の小学校で、16名の子どもの維持を図っていこうという地区の番組があった。少ない所には少ない所なりの良さがある。志比北小も36名を維持していける方向でいいと思う。（岩野）

関連意見：少人数学校でも先生方の愛情をたっぷり貰って、6年間で心が育つと思う。豊かで愛情たっぷり育った子どもは大きくなって、中学・高校と多クラスの学校に行っても育っていけると思う。小学校の時はバスで通うよりも、歩いて通えるところがいいと思う。陸上競技でリレーも組めないのは寂しいなとも思うが、統廃合まですることははないと思う。

吉野小学校は土地が安く、下水道助成があり、福井に近いと言う事で児童が増えた。宅地開発はいいのではないかと思う。 (岩野)

関連意見（議員）：志比北でも住宅団地を作ればいい。宅地造成に金が掛かって、また売れば町に金が入って来る。若干赤字になってもそんなに心配しなくてもいい。

問：町の人口減対策として、議員としては行政にどういう提案をしているのか。

(渡新田)

答：社会増減対策としては、「産業・雇用、住宅、交通インフラ等を計画的に育成・整備し、宅地造成や働く場の育成・誘致、賑わいの創出を図る」、自然増減対策としては、「若者が結婚し（出会い・縁結びサポート組織）、子どもを産み育てやすい（子育て・教育支援）環境づくりの為の施策、地域の協力体制整備」へ提案している。

意見：議員の意見では現実的に間に合わない。助成金等でバラマキできる町の財政状態でない。「地域おこし協力隊」（総務省）や「緑のふるさと協力隊」（NPO）をどうして使わないのか。今庄、坂井市、池田町でやっていて、住もうという若い人も出てきている。

(渡新田)

意見：永平寺町の子育て支援策や永平寺町を全国区に売り出すPRで、テレビの「お見合い大作戦」に町が手を上げて申し込んだらどうか。大きな情報発信ができる。

(渡新田)

○地域の防災強化を考えよう

意見：台風があった際、避難情報が出されたが、前もって相談すべきだ。

(下谷口)

問：自主防災連絡協議とは何？（具体的活動）

(下谷口)

答：他の地区で災害があった場合、助け合うために立ち上げた。

答（行政）：自主防災組織連絡協議会（防災ブロック単位で8協議会）としてまとまっ

て活動することで、単独の自主防災組織(地区単位で90組織)では難しい研修会や合同訓練などの活動ができ、また、他の自主防災組織との情報交換ができる。

平成26年度については、永平寺地区では、6月1日(日)の水防訓練や10月19日(日)の総合防災訓練、12月14日(日)に予定している「つながれ地域の絆～学ぼう！災害時の応急手当～」において、自主防災組織連絡協議会の活動としても位置付けている。

問：どこまで進行しているのか。

本年に入っても建前だけでは駄目。無駄ではないのか。看板だけでは駄目だ。
(下谷口)

答：実態を把握して報告する。

① 現況の活動内容 ② 今後の計画(実施計画)

上記の 答(行政) を報告と
します

問：自主防災組織の非常時の活用は困難だが。

ハザードマップを利用して、谷口地区では危険を想定して話すような研修(説明)の実施を求め。
(下谷口)

答：土砂災害の危険度がある(山間地)地区ほど、想定感じていない。
自区の危険を行政に訴えて、対策等を要求すべきと思うが。

問：防災無線機の活用、デジタル化になるのか。

(下谷口)

答：近い将来はわからないが、現在では計画もなし。

今後の計画を報告する。

意見：花谷地区土砂災害が生じた。鉄道・国道等も不通になった。

(下谷口)

問：林道となっているが、石の落下等で危険を調査しているのか。

今後調査すべきだが。

(下谷口)

答：林道は補助金がある。作業道は対象外。

担当課に伝える。

問：19号災害の避難準備情報に関して。

- ・避難勧告と言われた場合、どこへ行ったら良いのか、どこへ集まったら良いのかわからない。
- ・集落センターが避難場所になっている。九頭竜川が横にあり大雨災害の場合には集落センターでは使えない。災害の場合によっては避難箇所を変え

ないといけない。

(大野島)

答：この地区のことはこの地区の人がよく知り得ており、様々なことでマニュアル準備を想定することが大切である。災害の場合まず、自分の家族が大丈夫か、次はご近所の人がどうかです。地域の特性があるので避難箇所は行政が全て解るものではない。

どの世帯に高齢者・一人高齢者や弱者がいるか等、民生委員と協力して情報を把握しておくことは大事。

自主防災組織の隊長は、区長でなく専属的な体制にすべき。

問：地震・土砂災害・防災の手引き等の配布物が来るが、配布されるだけで内容が理解できない。ぜひ説明して欲しい。

(大野島)

答：行政に伝える。

問：台風19号で町から出された避難準備情報の広報内容が理解しにくい。具体的に何をすべきか平素より町民への周知を図るべき。

(学園)

答(行政)：町が発表する避難情報(避難準備情報・避難勧告・避難指示)について、発令時の状況・住民の皆さんのとるべき行動を記載したチラシを、11月21日に各戸配布にて周知する。

問：芝原の西保育園近くにある防災無線ですが、スピーカ2本とも西向きになっており、大変聞きづらい。地域によってはメリット・デメリットがあるでは。

(葵1丁目)

答：行政に提言する。

問：メール発信する場合には詳細情報・状況を伝えてほしい。町外にいても受信でき、対応しやすいから。

(葵1丁目)

答：行政に提言する。

問：10月13日の避難準備勧告警報については、台風・豪雨・土砂災害等住民にハッキリと広報してもらいたい。自助が大切だから。

(葵1丁目)

答：行政に提言する。

問：共助＝民生員、福祉員、区域で守るように指導を。まだ、初めての事だから訓練や練習することにより上達していく。

(葵1丁目)

答：家庭・近所・自主防災組織で練習や訓練の徹底を図るようにしていく。

問：近々、大野市・勝山市においてFMを立ち上げようとしているが永平寺町も加入していただきたい。 (葵1丁目)

答：行政に進言していく。

問：上志比地域の危険箇所は。 (石上)

答：犀川・吉峰川・河内川・南河内川などが危険。

中部縦貫の土地の買収の時の改修の約束が守られていない。

河内川はすぐに水があふれている。事故が起きる前に工事すべきと、要望を続けている。水量増加が見込めるので、改修が必要。

問：上志比地域の危険箇所の把握及び改修の対応が遅い。 (石上)

答(行政)：河内川の栗住波川との合流地点より下流については、河川改修工事により家屋の浸水被害などが解消されているところである。また、栗住波川との合流地点より上流については、越水防止のためのパラペット設置や、浚渫工事などの水害対策を行っている。

永平寺町では、河川改修などの治水対策事業が一日も早く完了するように、引き続き県に要望していく。

問：危険箇所(ハザードマップ中)の中に保育所や避難場所がある。おかしいのではないかと。上志比小学校は危険箇所から外れている。 (石上)

答：公共施設が危険箇所になっている所については、どうすべきか行政に確認する。

意見：一般町民がAEDの訓練をもっと受けておくべき。AEDの訓練をするより、消防署を残すことを考えてほしい。消防が無くなるのであれば、対応をきちんとしてほしい。 (石上)

問：台風18号、19号の時に消防車が巡回して見回りをしていなかった。消防の防災に対する意識が低下しているのではないかと。 (石上)

答(行政)：定期的に巡回・調査を行いながら、署において緊急出動に備えた態勢を整えている。

問：先日、防災訓練を実施した。ハザードマップの説明があったが、危険地域は斜面の傾斜だけが問題なのか。 (鳴鹿山鹿)

答(行政)：土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域については、地形・地質、土地利用状況、過去の災害実績などを現地調査し、斜面の傾斜度や高さ、

地盤勾配など国の基準に基づき指定している。

問：住んでいる所がハザードマップで危険地域に指定されていると建て替えに問題はないのか。 (鳴鹿山鹿)

答 (行政)：土砂災害特別警戒区域内で改築・増築・新築等をする場合は、土砂災害の衝撃に対して安全になるよう補強した構造にする必要がある。

問：山鹿地区の避難所は永平寺中学校だったため、避難するのに川を渡らないといけないので、「ふれあい会館」を建設した。山鹿地区は危険地域になっているが、危険地域の指定は斜面の傾斜だけで判断しているのではないか。地盤や地理的な条件など再度、詳細な調査をして、その地区にあった防災計画を策定してほしい。 (鳴鹿山鹿)

答：行政に確認する。

問：先日の19号台風の避難準備指令は早すぎた。どういう基準で発令するのか。 (鳴鹿山鹿)

答：発令した指示が空振りになっても、早めに指定を出したい。

問：避難準備指令が発令した時にどういう行動をするのかを事前に住民に伝えておくべき。 (鳴鹿山鹿)

答：町は「避難情報」の保存版を全戸配布しており、その中で、住民の皆さまがとるべき行動を示している。

問：永平寺地区は個別受信機があるが、古くなり受診しなくなった。修理ができない。対応してもらえないのか。 (鳴鹿山鹿)

答 (行政)：自主防災組織に対する資機材補助での対応が可能である。補助率は1/2。

問：屋外拡声器では、何を言っているのかが全く聞こえない。個別受信機も壊れている。全町民に危険を伝える対策はあるのか。 (鳴鹿山鹿)

答：ケーブルテレビで情報を流したり、メール配信で危険情報が流せないかなど、議会としては提言している。

問：今に鳴ると思って気を張っていると、鳴っているのはわかるが、何を言っているかはわからない。それなら、屋外拡声器は危険に応じて異なるサイレンを鳴らすだけにして、詳細な情報は別のもので伝えることはできない

のか。

(鳴鹿山鹿)

答：行政に提案する。

意見：各地区の防災用品確保は、100%補助にすべき。50%、80%でなく、道の方はこれ考えるべき。

とにかく小学校まで行けるようにして。

小畑、県道、たびたび水没する。

(小畑)

問：永平寺町内で災害はあったのか？

(松原団地)

答：水害はあったが、大きな災害はない。

土砂災害発生の危険個所で大きな所は3カ所。小さい所は200カ所以上ある。

要望：がけ崩れが起きそうな工事を許可しないでほしい。

(松原団地)

問：清流で5～6年前に上の地区から水が流れてきた。

(松原団地)

答：福井地震の時に堤防が切れたこともあった。

問：防災無線が聞こえにくい。何個あるのか。

(松原団地)

答：各地区に1つは付ける予定。

ケーブルテレビとの連動も考えている

答(行政)：防災行政無線については、親局、中継局、子局に非常用のバッテリーを装備しており、停電になっても親局については1週間程度、中継局・子局については1日程度電源が確保できるようになっている。しかしながら、それらで対応できないような想定外の場合には広報車での周知などの方法も検討していきたいと思う。

また、防災行政無線が聞こえないなどについては、子局スピーカの増設検討や現在は携帯メールでの伝達も実施しているが、今後はホームページへの掲載、ケーブルテレビへの掲載など多様な情報伝達手段についても検討しており、聞こえにくい場合には町のホームページや行政チャンネル(12ch)を見れば防災情報が分かるということの、町民の方への意識付けも今後行っていきたいと思う。

意見：災害の時は、民生委員など、区長と連絡をとるようにする。 (松原団地)

意見：9月議会の回答の中で、「9地区で防災のありそうな場所で見回りを行っ

た」とのこと。

緑の村の上に貯水池や建物が建っているが、点検が必要だと考えるが。

(東諏訪問・山)

問：・町行政として、山区の避難場所が危険地域になっている。

対応が必要ではないか。

・桜用水が下流。谷口・高橋地区の用水が狭くなってきている。地元の要望があったら、対応して欲しい。

(東諏訪問・山)

答：第1次避難所、広域避難所の設定については防災計画の見直しのなかで検討を行っていると言っている。

意見：永平寺川が山区から九頭竜川の間川幅や流水が悪くなっている。

以前より悪くなっているように感じるが。

永平寺川は県が対応しているが、区長・農家組合長の要望を出してあるのか。現状の確認が必要。

(東諏訪問・山)

答(行政)：町は地区の要望を受け、県へ要請しており、県においても河川全域の現状を踏まえた対応を実施している。

問：台風19号、南小学校への避難者の数は。

(東諏訪問・山)

答：避難者はいなかった。

問、意見：—10月13日の避難準備情報について—

① 「避難準備情報」の意味は？具体的に何をどうするのか分からない。

② 班長をしており、区長からの連絡で、班の人(区民)に伝えたが、一人暮らしで体の弱い方で、何をしたらいいのかと言われる人もあった。

「避難準備情報」発令の意味、その発令による住民や自治会の取るべき行動マニュアル未整備による戸惑いがあった。議会・役場の中でも、有事の場合の要援護者のリストアップ、要援護者に対する対策等の話はあったのかお聞きしたい。こうした避難準備や避難勧告、避難指示が出た場合のそれぞれの具体的な対応策を、まず役場の方でまとめそれを区の方へおろしていただきたい。

③ 防災行政無線の受信機の無い他の場所に居ると不明なので、何分おきかに繰り返し流してもらう方が有効。

④ 台風接近時に事前に学校教育課から避難所指定の連絡は受けており、当日小学校へ行き開錠した。避難所指定の小中学校10校には20名の管理職がいるが、15名は校区外から通勤しており、その内7名は町外か

らの通勤。校区内居住管理職は5名のみ。建物倒壊、道路寸断等実際の災害時は迅速な開錠ができるか問題もある。

学校職員室には個人情報集中しており職員室を外部に開放は出来ない。体育館と校舎を仕切れる所や仕切れない所あり。体育館で床の冷えを何で防ぐか、避難所指定に何日間持ちこたえられるか等々準備体制無く問題点多数あり。今回こうした実情や問題点が見えたので今後検証必要。

- ⑤ ひかり園の場合、要介護者90人に小学校へ移ってもらうのか。高齢者の場合移動させると返ってリスク大であり、ひかり苑の高齢者の場合動く必要はないと思う。また、高台にある栗住波・石上等は動く必要はないと思う。地域によって違うと思う。
- ⑥ 今回たまたま夜だったので自宅に家において各班長に連絡・依頼を出せたが、昼だと地区外に居て連絡がつきにくい。(市荒川)

答：誰が何をするか行政の方もまだ整備出来ていない状態であった。

避難準備情報発令時点での要対応者がどこまでするか理解・周知が今後必要。

問、意見：—10月13日の避難準備情報について—

- ① 避難準備情報発令の入ってきた携帯と入って来ない携帯とがあった。なぜか。
- ② 高齢者一人暮らしの人が避難場所（小学校）へ避難するとなったときは送迎をどうするのか。
避難場所が集落センターだと区長は大変だ。何を準備するのも分からない状態だった。
- ③ 避難準備情報と避難勧告、避難指示とはどこが違うのか。
なぜ今回、避難場所が小学校になったのか。
- ④ 避難準備情報が出て、小学校に避難所開設。高齢者等避難に時間のかかる人は避難してくださいと各戸に告げて下さいと連絡があり、区内に告知した。当時の指示系統はどうだったのか。
町から住民への指示系統を明確にしてほしい。今回どこからどう指示が来るかが不明確であった。(岩野)

答：① 防災メールは登録をした携帯にだけ入る。(平成26年4月より)

問、意見：—10月13日の避難準備情報について—

- ① 予想される脅威は、例えば御陵地区と吉野地区では違うと思うが、もう少し、その地区では何の脅威に対しての避難かを示してもらえると良か

った。

- ② 地区の浸水危険に対しての避難なら御陵小学校も浸水する、がけ崩れ危険に対しての避難なら松岡小学校を避難先指定はおかしいのでは。ハザードマップも災害史実をベースに精査して見直しして頂きたい。御陵地区は標高が低い為、日本海大地震時には津波逆流被害は想定されないのか等々も検討して作成してほしい。一面的データだけの避難指示は2次災害を招く危険もあり現実的ではないと思う。
- ③ これからも空振り覚悟で出すのか。今回は御領地区では実情から言うと避難準備情報発令は必要なかったのでは。発令は町独自の判断か。発令されると区長・民生委員等は動かねばならない。 (渡新田)

答：② 避難先自体が災害予想地域に入っている等、現状に応じた見直しをするよう行政に伝える。ハザードマップも全町1枚のものではなく、各地域の安全な避難経路等も示したもの（現実的に間に合うマップ）が必要と思うので、行政に伝える。

- ③ 避難勧告は町総務課が気象情報を収集した上で、町長が発令した。指示が遅れた場合の被害を考えると、たとえ空振りになったとしても出さねばならない。今のご意見も伝える。

問：上志比村時代に購入したミニポンプ車が故障している。修繕費用の補助金はあるか。 (市荒川)

答：修繕費用の補助金はない。修繕費用がかさみ買い換える場合は、50%の補助がある。

問：消防車が来るまでの自主防災と言うが、高齢者中心の自主防災組織に小型ポンプは扱いにくい。高齢者にも扱い易いよう消火栓消火を進めたいが、高齢者に60mmホースは持てないので、50mmか、40mmホースにして自主防災力を高めたい。その為には1本5万円×10本（市荒川）＝50万円のホース更新料が必要となるが、消防署から一番遠い地域には、補助率を50%でなく80%にしていきたい。これが本当の自主防災力向上ではないか。 (市荒川)

答：自主防災力強化で初期消火対応するためにも8分以上かかる所は50%でなく100%の補助をすべきと言っている。自主防災の会長さんを通じて十分区の方で審議して町に上げていきたい。

問：通報があれば即座に通報位置を割り出す「高機能消防指令システム」の正確性は70%で、30%は不正確が実際であった。（「下関市消防局」のレ

ポート) 補正の為に人員増が必要となっている。議員で十分審議していただき、住民に不要な財政負担かけないようにしてほしい。 (市荒川)

答：今後誤報等無きよう消防に注意していく。

問：町防災訓練と地区の防災訓練と、地区からの参加者が分散し、中途半端な感じだった。消防署の人も来ていただいて指導を仰ぎながら、地区別訓練を充実した方が意義あるものになるのではないかと思う。 (岩野)

答：年ごとに松岡、永平寺、上志比と順番に総合訓練を実施している。自主防災組織連絡協議会(防災ブロック単位で8協議会)としてまとまって活動することで、単独の自主防災組織(地区単位で90組織)では難しい研修会や合同訓練などの活動ができ、また、他の自主防災組織との情報交換ができる。地区別訓練、総合訓練、共に充実させることが必要。町の総合訓練日以外にも、地区自主防災組織にて防災訓練を実施したほうが良い。兼定島では二十数年来地区で防災訓練・消火訓練をやっていて今では女性だけでも消火栓からの放水はできる位になっている。やはり、地区の防災・防火技術のレベル向上が肝心。

問：AEDを各自主防災組織へ100%設置補助できないか。 (渡新田)

答(行政)：自主防災組織等補助金の資機材購入費に対する補助で、助成率50%ではあるが、対応可能。ただし、2年に一度のAEDパッドの交換や、4~5年に一度バッテリーの交換による維持補修は補助できないのでご理解願いたい。なおAED本体の価格は約30万9千円、パッド成人用2組入り約1万3千円、パッド小児用1組2万1千円、バッテリー約6万8千円となっている。

問：緊急時の避難先として当地区の至近避難場所は御陵小学校より県立大学である。水害の恐れある時に小学校まで行くより県立大学が至近。県立大学と協定あるなら避難先として小学校だけでなく県立大学も指定して欲しい。 (渡新田)

答：町の「暮らしの便利帳」には指定広域避難施設として県立大学交流センター・県立大学体育館が記載されている。情報の整理整頓ができていない。地域で現状に合わせて確認・見直ししていく必要がある。

要望：ハザードマップ想定の上水状況想定は、今の地区の環境から考えると実態に合わない部分がある。また指定避難先の御陵小学校へ行くのに2次災害が起きる可能性もある。避難準備情報や指示、避難先は現地の状況を踏まえて明確にしていきたい。

最近の豪雨の激しい降方をみていると返って動かずに、この改善センターの2階の方に避難した方が良いかと思う。

県道鳴鹿森田線の北陸道交差下の2地点、領家ふじた前の通りと平成地区の北側は降水量が多いと道路が冠水し交通止めになる。知っているのか。危険なので排水改修をしてほしい。(渡新田)

問：渡新田前堤防下の河原をブルで掘り下げて流れを変えようとしている。

堤防基礎が洗われ堤防にダメージを与えるおそれもあり、ブルで掘り下げているのはどういうねらいで掘り下げているのか。(渡新田)

答(行政)：九頭竜川自然再生計画に基づき中流域の砂礫河原の環境の再生を目的に国交省が実施している事業で、堤防に損傷を及ぼすことはない。

問：地区別防災訓練の時に、7時半にサイレンがなるから集まって下さいと案内したら、サイレンは8時であった。おかしいのでは？ 7時半に地震が起きたのなら、30分も間を置かず速やかにサイレンを鳴らすべきである。

(渡新田)

答：今後の対応を行政に伝える。

問：大谷川の水量増加が近年激しい。以前は増水してもコンクリート護岸をした範囲までであったが、近頃はその上の土手の部分にまで増水する。山が採石のためはげ山になった為か理由は不明であるが、地元で水量増加をキチンと観測するためにも、領家橋付近に流量観測用のメジャーを設置してもらえないか。(渡新田)

答(行政)：領家橋付近は河川改修により流下断面に比較的余裕があることや県の河川・砂防総合情報による指定された水位観測地点ではないことから、永平寺町や福井県による河川パトロールにより、水位の把握を行っていくのでご理解をお願いしたい。

○その他の意見交換

地区要望関係

問：地区からの要望書が、実行していただけない項目が多くなり、要望項目が増えるばかりである。これから集会の時に町担当者や議員にも来てもらい説明してほしい。議会と語ろう会で生の声を聞くと言うが、どこにも発信していないのではないか。

町長の考え方は上志比全体で優先度をつけてやっていく方法があるとは聞いたが、町民に説明できるようにやっていただきたい。 (市荒川)

関連意見：要望を出すのが、聞いてもらえない。※防壁（清流） (松原団地)

答：今回、区の要望書に対し初めて区長に回答書が出た。緊急度の高いものからやっていくという方向かと思っていたが、今回は、できないものもあったようだ。町がする事、県が対応する事等々いろいろあり、なかなか各地区要望に優先度をつけるには地区利害が絡み困難な面もあるが、説明がつくことが大切だと思っている。

要望：渡区内の150m程度の融雪を何度も要望書を出しているが実施していただけない。いつになったらやってもらえるのか。区からまた要望書として出させてください。 (渡新田)

問：地区の公園遊具の点検修繕で、町負担と区負担があるのは不公平では。 (渡新田)

関連問：遊具のペンキの塗り替えはどうすればよいのか。 (松原団地)

関連問：遊具のワイヤーが出ているが、メーカーから補修できればする。 (松原団地)

答（行政）：従来から、地区の神社敷地等の中にある遊具は、区で維持管理が行われており、社会福祉協議会で助成している赤い羽根共同募金の助成対象になる。この助成制度は、遊具の新設や修繕等の維持管理も対象となるので、計画的に活用いただきたい。

町が条例に基づき管理している公園や宅地造成で作られた公園は、広く一般の利用に供される公有財産であることから、町が維持管理を行っているので、ご理解をお願いしたい。

要望：北島大橋下流左岸の整備をしてほしい。 (大野島)

問：公園の管理はどうなっているのか。 (松原団地)

答：町で管理。草刈は地区にお願いする。

要望：松原団地の駐輪場の屋根が腐って倒れたりしたので、点検してほしい。 (松原団地)

問：街灯を増やしてほしい。 (松原団地)

答：予算があるので、要望を出してほしい。

要望：鳴鹿山鹿の防災は永平寺北地区で行政は永平寺中地区か。どちらかに統一できないのか。 (鳴鹿山鹿)

問：永平寺口駅のコミュニティーバスの停留所が屋根しかない。夏は暑くていられないし、雨が降れば椅子も濡れてしまっ座れない。バスの停留所には屋根だけでなく囲いも作ってほしい。利用者の身になって考えてほしい。 (鳴鹿山鹿)

答 (行政)：永平寺口周辺整備事業の関連工事として、今年度、風除けのための壁を設置する予定。

問：一般県道吉野福井線バイパスの整備はどのような状況か。 (小畑)

答：町から「地域振興に関する要望書について」で県へ要望しているが、具体的な計画は提示されていない。

要望：地区要望に対し、できるのか・できないのか返事が欲しい。 (大野島)

要望：行政は各地区からの要望に対し、丁寧な回答をしてほしい。 (小畑)

答：区長に回答はするようになってきた。

答 (行政)：各地区の要望に対して回答が欲しいとの要望を受け、今年度から地区要望に対しての回答を行っている。1回目は8月下旬に行い、2回目を12月上旬に行う予定。今後も、地区要望に対しての回答を行っていくので、ご理解のほどお願いしたい。

要望：県道が暗い。福井から真っ暗な中を帰ってくる。街灯が必要である。 (小畑)

答：地域で要望を伝えることが必要。

問：電気柵、ネット柵？は半端な金ではない。すべて持ち出しになるのでは。 (小畑)

答 (行政)：電気柵の地元負担は1/3。ネット柵の地元負担は1/5。

意見：植栽したアジサイ、ドングリ、梅の木、キンモクセイとその後のメンテナンスをやっていないので点検すべき。 (東諏訪問・山)

学校・子育て関係

意見・要望：私は小さい永平寺町で元通りの数の学校数を残す必然性は全く感じない。統廃合してもいいと思う。財政的に窮迫しているのなら一本化してもいいと思う。 (岩野)

問：学校給食費無償化はいつまで続くのか。 (大野島)

答：議会も町民の意見を集約できるよう求めている。

答(行政)：現在、学校給食検討協議会を立ち上げ、給食費無償化も含めていろいろな意見をいただいているところである。また、あらゆる機会をとらえて、町民の皆様の意見をお聞きしながら、方向性を検討していきたいと考えている。

問：山鹿の小学生は志比北小学校へ行く子と志比小学校へ行く子どもがいる。どちらも学校までの距離は2キロ余りであるが、志比北小学校へは車の送迎があり、志比小学校へは徒歩通学である。これは、不公平ではないか。

(鳴鹿山鹿)

答(行政)：志比北小学校の児童確保のため平成23年度より山鹿地区より公用車で登下校の送迎を行っている。現在は、コミュニティバスのダイヤの改正もあり、登校はコミュニティバスの利用となっている。下校は公用車で送迎しているので、志比北小学校校区及び志比小学校へ通学する児童との不公平感は否めない状況である。

今後は、今までの経緯を踏まえて山鹿地区の就学前園児の調査も含め、不公平感のないよう通学方法の解消に努めていく。

問：6歳の子どもが毎日片道2キロ余りを歩いて体の成長に問題がないかを調査してほしい。 (鳴鹿山鹿)

答：行政に確認する。

問：小学校のいじめ、新聞報道があった。永平寺町内での状況は。把握しているのか。 (東諏訪間・山)

答：各学校では、全くないと言い切れない。全てを把握していない場合もある。学校で、先生も含め対応。

問：見守り隊で、学校内での話し合いの場はあるのか。学校単位であるのか。 (東諏訪間・山)

答：対策については取り組んでいるので、早い対応をお願いしている。

要望：志比小学校

- ・山区、歩道の除雪をしてほしい。
- ・永平寺サイジングの交差点、時間帯侵入禁止にして、入られないように規制をかけて。 (東諏訪問・山)

問：・マムシが多い。農薬？

- ・子への教育もしては…対応も (小畑)

答：学校で見せている。ペットボトルに入れて。

要望：・新しい道路、街灯つけてほしい。真っ暗だ。(中学生) (小畑)

- ・どうして吉野区内を通学路にしないの。

問：子育て支援策として3人以上の子どもがいる家庭には町独自で、もっと手厚い支援をしてほしい。 (松原団地)

答：本町は3人目から保育料は無料となっている。

答(行政)：「子育てにやさしいまち」として合併前から様々な子育て支援策を実施している。特に3人以上の子どもを持つ家庭に対しては、第3子以降3歳未満児の保育料はすべて無料(同時期に3人が園に在籍していれば3歳以上児でも第3子以降は無料)となっている。また、経済的負担が大きい3歳未満児に対して「3人っ子すくすく応援事業」を実施しており、「すくすく保育」「一時預かり」「特定保育」「病児・病後児デイケア」「すみずみ子育てサポート」において、無料としている。

提案：子どもを遊ばせる場所がない。永平寺の名所を公園の近くに作っては。 (松原団地)

議会関係

要望：夜の時間帯に開催の「議会と語ろう会」にはお年寄りは来られない。昼の時間にやってほしい。

問：去年、議員定数と議員報酬とをやったが、二つとも改められなかった。投票率も下がってしまった。反省・総括したのか。 (岩野)

答：全議員が定数を18にしたように言われるが、地区によって異なる。松岡地区では定数減らせと言うし、上志比やこちらの方では議員定数を減らす

など言う。最終的に議会で採決を取り、18人維持となった。
議員報酬については永平寺町においては政務調査費も無く、月例報酬は広報永平寺に出ている通り、月額22万である。先日の福井新聞投書に出ていたような手厚い報酬だといいなと思うレベルで、他に年金収入等の有る60代ならいいが、政治に情熱を持つ40代、50代の人携わるには厳しい額である。

要望：町や議会の行事・広報には手話通話の導入を促進してほしい。

問：議員定数はどうするのか。定数を減らす意思はあるのか。（鳴鹿山鹿）

答：議員定数が18人の時のメリットとデメリット、定数を削減した場合のメリットとデメリットをしっかりと検証して慎重に決定したい。議員定数を削減するのであれば、議会の組織改革が必要である。

問：議員の年齢制限や他薦はないのか。（鳴鹿山鹿）

答：町内在住で25歳以上であれば、年齢制限や他薦はない。

問：議会と語ろう会のお知らせは何日前にしているのか。（松原団地）

答：1ヶ月～から3週間前を目途に行っている。
議会だよりに掲載するほか、ビラの配布も行っている。

その他

問：国体の3種目は国や県からの依頼があったのか、それとも永平寺町が引き受けたのか。（葵1丁目）

答：4年後の平成30年開催の国体の3種目と身障者スポーツ大会を引き受けた。

問：国体の種目の運営費、設営費、施設等に係る費用はいくら位かるのか。

（葵1丁目）

答：約8億円弱かかる。

問：バスケットボール会場のサブ体育館はどうするのか。（葵1丁目）

答：今後の課題であり、行政と議論していく。

問：各種色々な事業があり大変よいと思うが、これらの取り組みを幅広く分か

りやすく広報すべきでは。

(学園)

答 (行政) : 様々な事業の取り組みについては、毎月発行している広報誌「広報永平寺」・永平寺町公式ホームページにてお知らせしている。また、必要に応じて「各戸配布チラシ、回覧板、こしの国ケーブルテレビ行政チャンネル」等でお知らせを行っている。5月からは「永平寺町役場フェイスブックページ」をスタートさせて、情報発信力の強化を図っている。マスコミに対しても積極的に情報発信し、紙面掲載してもらえるよう努めている。

子育て支援などの永平寺町の特徴ある施策を紹介し定住促進を図るため、昨年度から県内民放のテレビCMを制作し、放送している。

今後も、情報発信の強化を図り、スピード感をもった分かり易い広報活動に努めていきたい。

要望：えちぜん鉄道 観音駅 駐車場を広くしてほしい。

(学園)

問：農業のあり方、指導者を育成して、農家を指導してほしい。勝山では女性職員にも実地研修をしている。実態見直しは。

(石上)

答：専門職を採用するよう要望している。農業は農協が対応している。

問：人を入れるのなら若い人である。防災で消防が統合しているが、救急の体制が必要。病院や学校のある所に人が集まる。何を重視するのかを絞る必要がある。議会としての方針を決めるべき。

(石上)

答：若者定住事業や子育て支援をしている。町の大きな柱である。消防については、統合することで集約し、その効率を高めようとしている。

問：企業誘致について町はどのようにしているのか。

(鳴鹿山鹿)

答：町単独ではなく、県も巻き込んで誘致しないと実現しない。

要望：誘致したら道路のアクセスをきちんとしてほしい。

橋を拡幅して…と要望もしているが。

意見：永平寺は、山と川があるので、年間通じて利点を生かすべき。

(松原団地)

意見：川で子どもから老人まで遊べるように整備をしては。

(松原団地)

意見 (議員) : 山形県では芋煮会を開いて県民が気軽に河川公園を利用している。

問：河川に自由にあそべる広場を作り、バーベキューができないか

(松原団地)

答：トイレ問題や河川的环境汚染となると漁協との問題がある。

意見：他の自治体では、農産物をJAが管理し、問い合わせがあれば紹介している。

(松原団地)

問：クマの出没の案内で、周知はどうなっているのか。

答：防災行政無線で放送している。

問：クマ対策として、遊歩道近くの未耕作地、草刈りをしてほしいと町に要望してあるが。

(東諏訪間・山)

答：クマはうすぐらい時間があぶない。学校で出会わない場合や出会った場合など、学校の対応も考える方向で。

答：(行政) 基本的には地域での草刈り等の対応を考えてほしい。

要望：緑の村に行事があると大型車が通り、道路にひびが入っているので調査してほしい。

(東諏訪間・山)

要望：国体がある時、大型バス通らないように通行を考えること。

(東諏訪間・山)

問：セイタカアワダチソウなどの外来種に対し、町はどのように考えているのか。勝山市の方は、ボランティアがやっているが。

(東諏訪間・山)

答：(行政) 繁殖状況を調査し、対応を検討していきたい。